



55年間ありがとう

しおつき けん じろう
塩月 健次郎 医師 (89歳)

- 昭和 23年 岡山大学医学部卒業
- 昭和 25年 岡山大学医学部第2内科入局
- 昭和 28年 塩江町立塩江病院勤務 (現高松市)
- 昭和 30年 詫間町立永康病院勤務 (現三豊市)
- 昭和 31年 栗島診療所開設
- 昭和 49年 志々島診療所嘱託医

栗島・志々島で島の医療を支えてきた塩月健次郎医師が、55年という長きにわたる医療活動に終止符を打ち、12月28日、最後の診療を終え、栗島をあとにしました。

12月28日、ひとりの医師が栗島を去りました。医師の名は塩月健次郎。55年という長い間、栗島や志々島で医療活動を行い、島の人々を支えてきました。

塩月さんが栗島での医療を始めたのは昭和31年。宮

崎県出身で、塩江町立塩江病院(現高松市)や詫間町立永康病院(現三豊市)などに勤務。島に医師がいない現状を目の当たりにし「島には絶対医師が必要」という思いから、栗島での医療活動をスタートさせました。

島の船着き場から5分ほど歩いた畑の中に、木造の診療所があります。その診療所で診療を始めたころは、医療設備がほとんどない状態で、医療機器を自費購入して、少しずつ環境を整えていきました。

また、栗島だけでなく、モーターボートで周辺の島に往診に行くなど、離島の医療を支えました。

平日は栗島で過ごし、週末には丸亀市の自宅に帰る生活が続けながら、島の人たちを見守ってきました。

赤ん坊のころから診てもらっている人も多く、親子2代でお世話になっっている人も少なくありません。島の人は、みんな顔見知り。つきあいが長いだけに、顔を見るだけで体調が分かると言います。

そんな塩月さんも89歳。島の人口も、開業時と比べると10分の1の約300人まで減少し、年齢的にも潮時と引退を決意しました。

最後の診療を終えた塩月さんを見送ろうと、多くの島民が港に駆けつけ、別れを惜しみました。

「先生ありがとう」「お元気で」という感謝の言葉につつまれて、55年間の重みと思い出を胸に、塩月さんは栗島を去りました。

ほんとうに
ありがとうございました

